

第10期 全日教連モニター調査

伝統と文化を尊重する教育についての調査

調査結果



全日本教職員連盟

伝統と文化を尊重する教育についての調査

全日本教職員連盟

1 はじめに

平成18年12月に改正された教育基本法には「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」という目標が定められている。そして、同法の改正を踏まえ、中央教育審議会（中教審）においては、伝統や文化に関する教育の充実や必要性についての審議がなされた。

平成20年1月の中教審答申では、「国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である」と述べられ、教科ごと、学校段階ごとに具体的な方策が指摘されている。前記の中教審答申を受け、平成21年3月に小・中学校の学習指導要領の改訂が行われた。

伝統と文化に関する充実事項としては、国語科での古典、社会科での歴史学習、技術・家庭科での伝統的な生活文化、音楽科での唱歌・和楽器、美術科での我が国の美術文化、保健体育科での武道の指導等が挙げられている。これらの特定な教科だけではなく、他の教科や教科外の諸活動も含めて、伝統と文化に関する事項の取り扱いが重視されている。このような新学習指導要領の内容に基づいて、今後は全ての学校において伝統と文化に関する教育が具現化されるであろう。

さらに伝統と文化の尊重についての趣旨や意義について、教職員間ではもとより保護者や地域を含めた共通理解に努めるとともに、全体計画・指導計画等の作成、指導方法や教材の開発、外部人材や関係諸団体等との連携を図る体制づくりを推進していかなければならない。

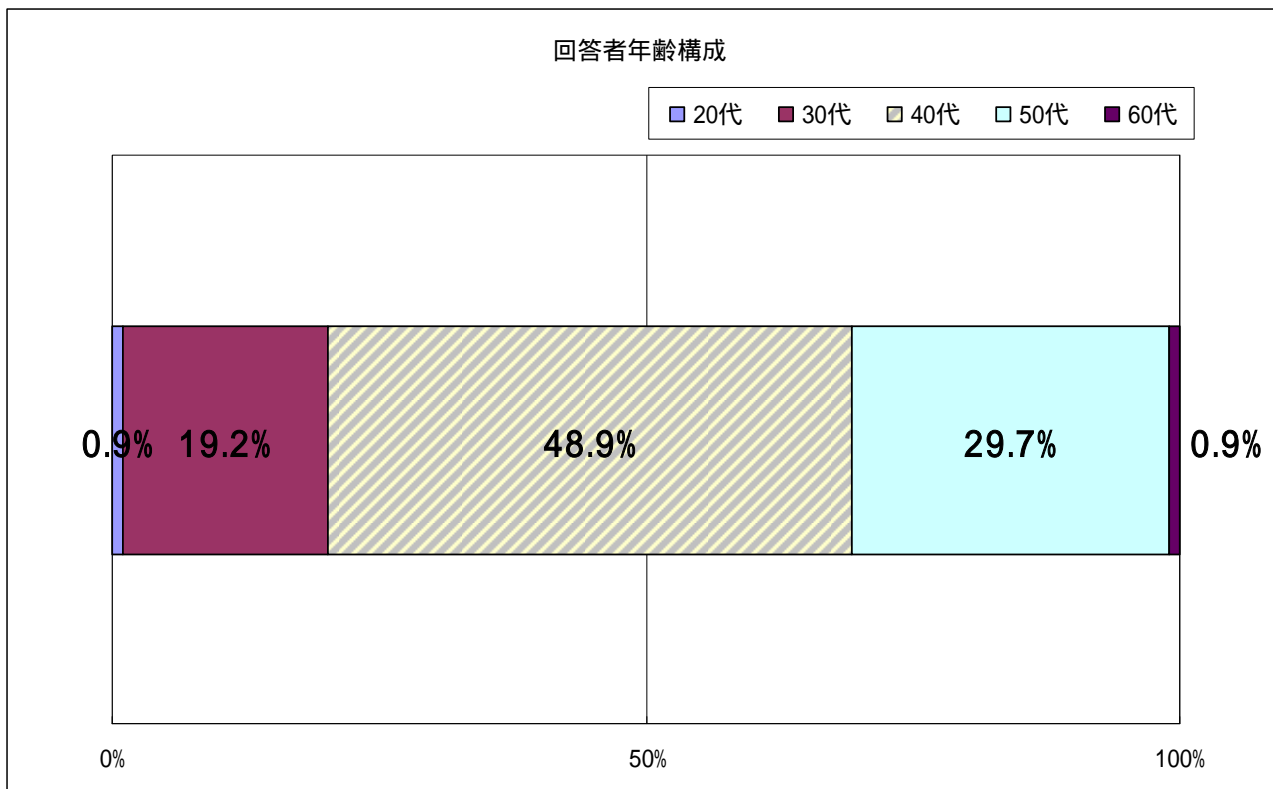
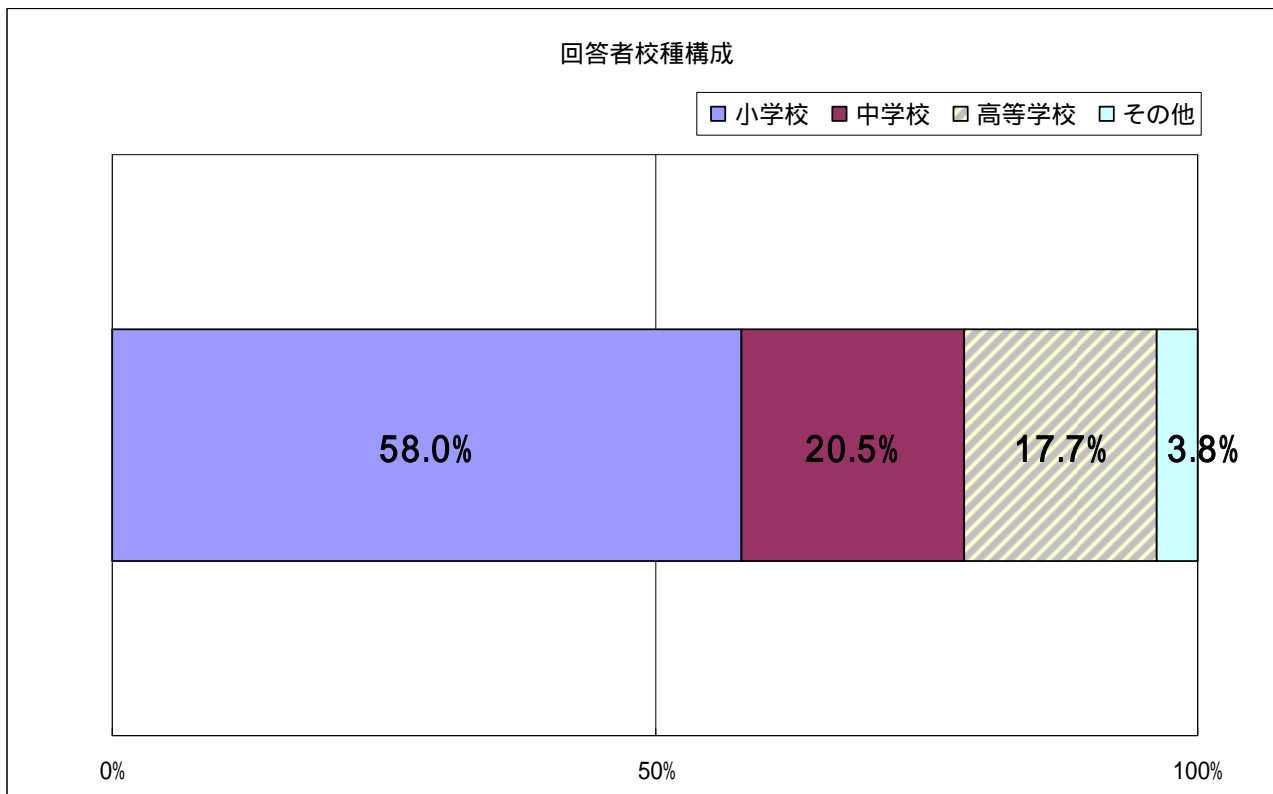
2 調査のねらい

「伝統と文化を尊重する教育」について、会員の意識を調査し、全日教連としての見解をまとめ、文部科学省等への提言活動や各種研修活動に活かすための資料とする。

3 調査の方法と期間

平成21年9月28日～10月16日までの間、全国32単位団体から推薦された全日教連モニター600名を対象に行った。

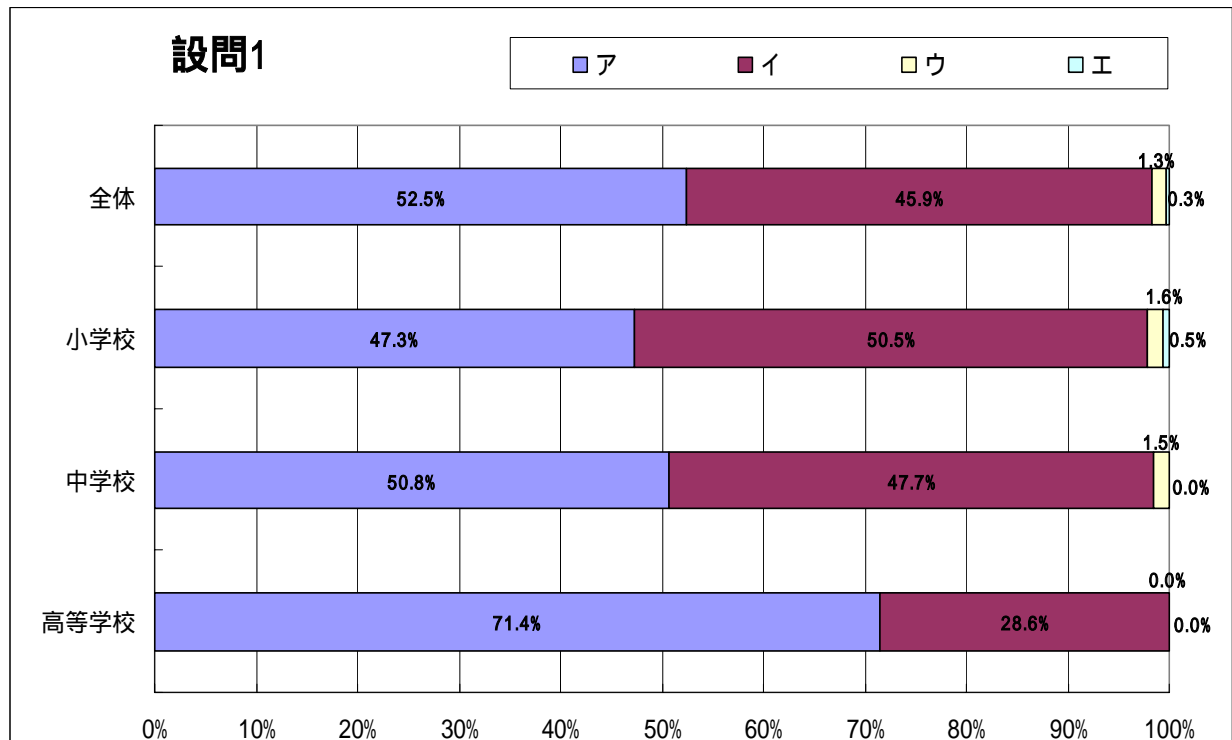
4 回答者構成



5 調査結果分析

設問1 伝統と文化に関する教育は、新学習指導要領の重点事項とされています。子供たちに伝統と文化を教え、伝えていくことに関して、あなたはどのように捉えていますか。次の選択肢の中からお選びください。

- ア 大変重要である
- イ 重要である
- ウ あまり重要ではない
- エ 重要ではない



傾向と考察

伝統と文化を教えることは、「ア 大変重要である」と答えた割合が、全体で52.5%、「イ 重要である」と答えた割合が45.9%を占め、合計98.4%の回答者が重要であると認識している。特に高等学校では、「ア 大変重要である」と答えた割合が70%を超え、「イ 重要である」と答えた割合を併せると100%になり、高等学校の回答者全員が重要であると認識していることが分かる。

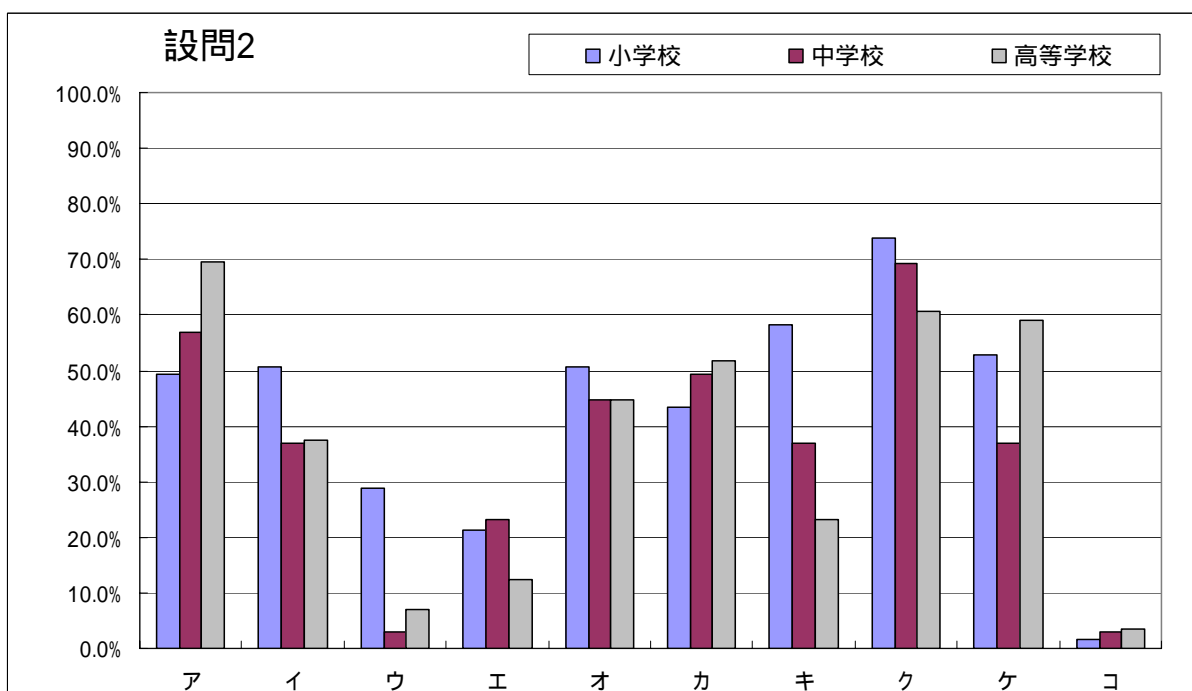
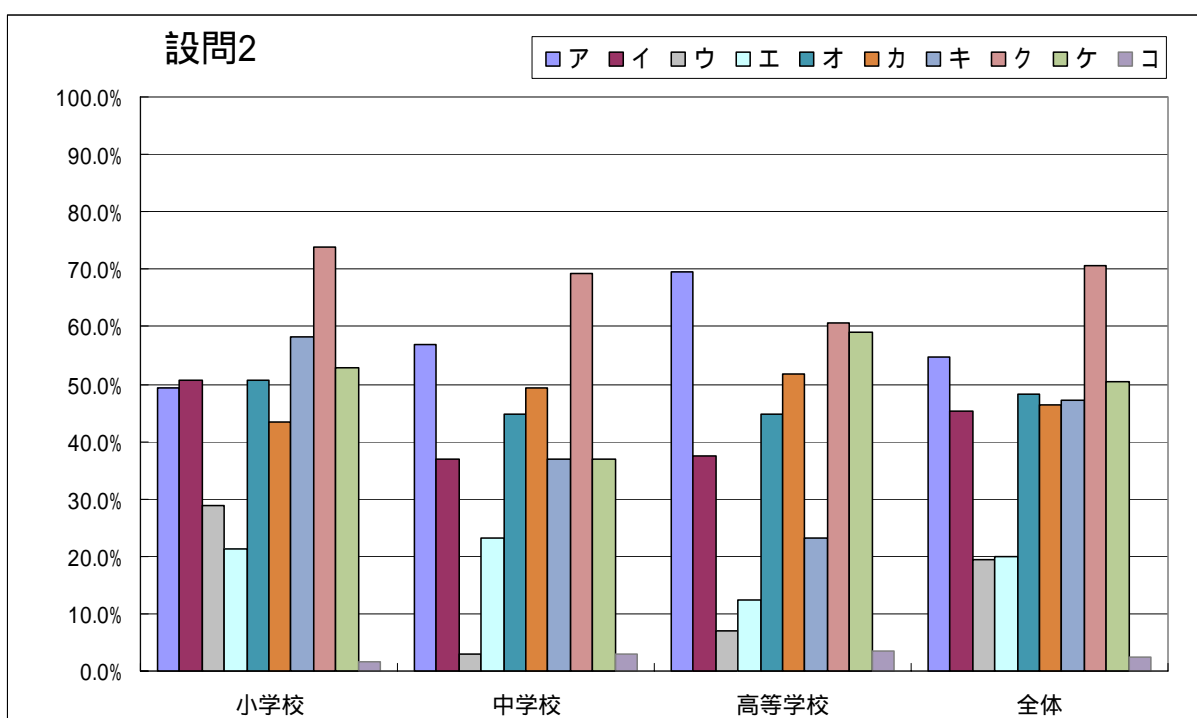
さらに、「ア 大変重要である」と答えた割合が、小学校、中学校、高等学校と学年が上がるにつれて増えていることから、子供たちの成長に伴い、伝統と文化に関する教育の重要度が増し、必要性が高くなっていることが伺える。

また、選んだ理由には「これからの国際社会で生きていくためにはまず、日本の伝統と文化をしっかりと学ぶべきである」という意見が大変多く、日本人としてのアイデンティティを確立することの大切さを指摘している。

一方、「ウ あまり重要ではない」「エ 重要ではない」を選んだ理由として「学校に求められることが多すぎる」「学校現場以外で教えるべきである」という意見があった。少数意見ではあるが、教職員への負担が増すという学校現場の問題点も明らかになった。

設問2 教科だけでなく教科外の諸活動も含めて、伝統と文化に関する事項の取り扱いが重視されています。あなたの学校の子供たちの現状から特に何を教え伝えていきたいですか。次の選択肢の中からお選びください。（複数選択可）

- ア 我が国の歴史的変遷や文化
- イ 俳句、短歌、百人一首、古典等の言語文化活動
- ウ カルタやメンコ等の昔遊び等の文化
- エ 琴や尺八等の邦楽の伝統や和楽器の文化
- オ 着物や日本食等の衣食住の文化
- カ 剣道や茶道、華道等を通しての礼儀
- キ お年寄りとの交流等の地域人材交流
- ク 祭りや行事等の地域の方々が継承してきた地域の伝統
- ケ 日本の偉人や地域の先人等の生き方
- コ その他（ ）



傾向と考察

「ク 祭りや行事等の地域の方々が継承してきた地域の伝統」が、全校種で60%以上を占め、高い割合を示した。特に小学校では約74%と高く、低学年から地域の伝統を伝えていくことが重要であることが伺える。しかし、裏を返せば、昔に比べ、地域との関わりが少なくなり、学校で教えていかなければ地域の文化や行事が継承していけないという実態が浮き彫りになっている。

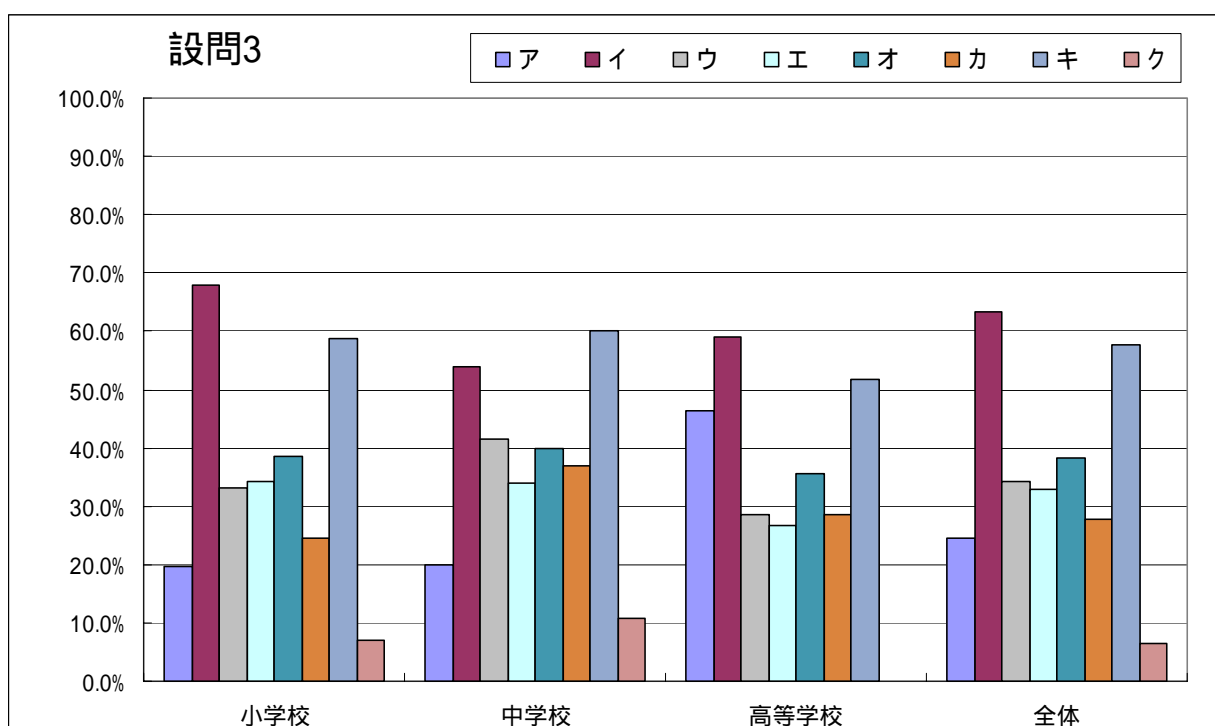
次に「ア 我が国の歴史的変遷や文化」が、全体で約55%を占め、高い割合を示した。また、小学校約50%、中学校約60%、高等学校約70%と学年が上がるにつれて増加していることから、小学校から発達段階に応じて、系統立てて進めていく必要性を感じていることが伺える。

また、「ケ 日本の偉人や地域の先人等の生き方」は、全体で70%を超え、高等学校では約60%を占めた。道徳等で取り上げる学校が増えていることや生き方のモデルを示すことが有効な指導であることも伺える。

「キ お年寄りとの交流等の地域人材交流」は、小学校では約60%と高い割合を示したが高等学校ではかなり低い。高等学校の実態として指導しにくい分野であるという課題が明らかになった。

設問3 伝統と文化を尊重する教育を推進するにあたり、学校現場での課題は何ですか。次の選択肢の中からお選びください。（複数選択可）

- ア 効果的な指導法が分からない
- イ 教材開発や教材研究にける時間が確保できない
- ウ 全職員で研修する時間が確保できない
- エ 教材・教具等を準備することができない
- オ 外部の人材、外部の団体の発掘や確保が難しい
- カ 校内の組織体制（T・T、コーディネーター等の担当教員）が充分整備されていない
- キ 教育課程の編成（位置付けや教科との管連、時間の確保等）が難しい
- ク その他（ ）



傾向と考察

「イ 教材開発や教材研究にける時間が確保できない」「キ 教育課程の編成が難しい」が、全体で約 6 割を占め、飛び抜けて高い割合を示している。この2つが伝統と文化に関する教育を推進するに当たって大きな課題であることが伺える。

「ア 効果的な指導法が分からない」は、小・中学校では20%と低いものの高等学校では46%と高い割合を示している。発達段階に応じて内容が専門的になることや、生徒が興味・関心を示しにくくなること等が原因として考えられる。

「オ 外部の人材、外部の団体の発掘や確保が難しい」は、どの校種とも高い割合を示し、共通する課題であることも明らかになった。

自由記述からは、保護者の理解や、地域の協力、教材、人材等、伝統と文化を尊重する教育を推進・充実させるための基盤の整備が進んでいないという実態も浮き彫りになった。

設問4 伝統と文化の尊重する教育を推進する上で、御意見がございましたらお書きください。

学校現場に関して

- ・ 新たに教材を作成して時間をかける余裕はない。現行の学習において、伝統と文化を尊重することを視点に指導していきたい。
- ・ 伝統と言っても幅が広い。各学校での重点を絞り、取り組むことが大切である。
- ・ 教師の伝統と文化に関する正しい知識や技能を習得するための研修が必要である。
- ・ 体育、図工、音楽、家庭科なら伝統と文化の教育を取り入れやすい。
- ・ 日本の伝統と文化を尊重するとともに、外国についても関心を高めバランス良い教育が大切である。
- ・ 地域に根ざした伝統と文化を大切にしていこうとする気持ちを育てていく必要がある。
- ・ 教師自身が伝統と文化を尊重する心を身に付けなければならない。
- ・ 教育課程の編成においてゆったりとした時間、じっくりと取り組めるようなものでありたい。
- ・ 英語活動も大切だが、日本人としての伝統と文化、そして日本語の教育にもっと力を注ぐべきである。
- ・ 今の教育界には新しくやらなければならないことが増えているが、人員を増やすことがない。

文部科学省等の教育行政に関して

- ・ 副読本やビデオ等があれば全国共通に最低限のことが学べる。
- ・ 先進的な実践校を指定して、具体的な実践をどんどん紹介して欲しい。
- ・ 日本の礼儀作法を教えることで規範意識も身に付く。そのような機会を国として作る。
- ・ 国として共通して押さえて指導すべき内容を教材に列挙して指導法等も明示して欲しい。
- ・ 学校現場に人員と予算を確保しなければできない。
- ・ 教材・教具を準備するための財源を確保して欲しい。
- ・ 今の学校現場の実態では、これ以上求められてもパンクしてしまう。
- ・ 人員や予算の確保、地域の人材発掘等しっかりと土台を作って欲しい。
- ・ 全て学校に任せすぎである。外部委託できるようにもして欲しい。
- ・ 学校現場で必要とするものを十分に準備・支援できる体制作りをして欲しい。
- ・ 伝統と文化の教育の重要性が国としてアピール不足である。
- ・ 国や地方自治体が主催する芸術家等の派遣事業の充実をさらに図る。

- ・ 過重負担にならないようにするための条件整備が先決である。

家庭・地域に関して

- ・ 地域人材を活用していく場合、学校教育ということを理解してもらわなければならない。講師の自己満足にならないように連携していかなければならない。
- ・ 地域の活動を復興して、学校にどんどん入ってきて欲しい。
- ・ 家庭、地域、学校が連携して取り組む必要がある。教師も地域行事に積極的に参加したり、家庭では食事作法等も大切にしたりして欲しい。
- ・ 学校だけの取組でなく、周りにいる大人が伝統と文化をどれだけ意識していくかが大切である。
- ・ 地域の行事に参加する子どもがいるが伝統を受け継ぐ意味等を理解していない。家庭や地域で話していくべきである。
- ・ 学校現場だけでは限界があるので家庭や地域でも大切さを伝えて欲しい。

全日教連の見解

教育基本法・学校教育法の改正を受けて、新学習指導要領では「伝統と文化を尊重する教育」の充実が求められている。グローバル化が、進展していく中、次世代を担う子供たちが、日本人として世界で活躍するためには、自国を愛し、自分が生まれ育った地域を誇りに思う心を育てることが重要になる。さらに国際社会の一員としての立場を自覚し、自ら貢献しようとする意識を持つことも大切である。

また、伝統と文化を尊重する教育は「自己の生き方を深める」という側面を持ち、「生きる力」を育む上で重要な役割を担う。

つまり、伝統と文化を尊重する教育は、「日本人としてのアイデンティティ」、「国際性」、「生きる力」を育てるために、基盤となるものである。

今回のモニター調査では、「伝統と文化を尊重する教育」を推進するための学校現場、国や地方行政、家庭や地域社会におけるそれぞれの課題や役割をまとめた。推進・充実していくためには、教職員間はもとより保護者や地域も含めた共通理解が不可欠である。さらに国や地方が条件整備に取り組むことが求められている。全日教連は、調査結果をもとに関係諸機関等、各方面にアピールしていく。

(1) 学校現場に関して

学校現場で伝統と文化を尊重する教育を推進・充実していくためには、全教職員が感心を持ち、組織全体で取り組まなければならない。そのためには、以下の点に留意して指導體制の整備を行うことが大切である。

系統性を持たせた指導

設問3では、「教材開発や教材研究にける時間が確保できない」「教育課程の編成が難しい」の2つが学校現場での大きな課題であることが分かった。教職員の多忙は、以前からの課題であり、現状のままで、新しいことを取り入れようとすると無理が生じるのは当然である。

伝統と文化を尊重する教育を充実すると言っても、多種多様である。現在、学校現場には、新たに教材を作成して時間をかけて取り組む余裕はない。したがって、現行の学習において伝統と文化を尊重する視点を位置付けて行うことが現実的である。

また、子供たちに育てたい力を学校独自で示すことが大切である。卒業するまでにここまでは育てたいというゴールを示すことで、各学年での到達点も見えてくる。発達段階において内容に系統性を持たせ、様々な教科に位置付けてじっくりと育てていくことが求められよう。

担当主任(コーディネーター)の設置

学級担任は、伝統と文化を尊重する教育を進めるにあたり、年度当初の年間計画、各教科等と関連付けた指導計画、校外学習の現地下見や事前の打ち合わせ、外部講師の依頼、地域探検の引率等を行うことが必要になる。また、学習内容を深めるために学習コーナーを設けたり、掲示環境を整備したりすることも大きな負担となる。更に学習後には、評価を行わなければならない。

このように考えると学級担任のみで行うには負担が大きい。学校全体として推進・充実させるためには、校内において専任となる担当者が必要になる。校務分掌に伝統と文化を尊重する教育を推進するための担当主任を校務分掌に位置付け、指導計画の作成、教材の整備・充実、外部講師との連絡・調整等、担当主任を中心とした校内の協力体制の確立に努めることが重要である。

研修の充実

伝統と文化を教えることは「大変重要である」「重要である」と答えた割合が全体で98.4%を占めたことから、伝統と文化を尊重する教育が、現在の子供たちに必要であり重要であることが明らかになった。その反面、

高等学校の回答者からは、「効果的な指導法が分からない」という割合が半数近くにも上った。さらに自由記述には、「教師自身が伝統と文化を尊重する態度を身に付けなければならない」「教師自身に知識や理解が不足している」という回答も多い。

今後は全ての教育活動において指導法の研修を行い、指導力を改善することが必要であろう。更に、各地域の伝統と文化を伝えていくには、その学校の教職員全員が校区の歴史を見聞したり、体験したりする研修も必要となる。

(2) 国や地方行政に関して

教育基本法では「伝統と文化を尊重すること」が明示され、新学習指導要領では重点項目として扱われる以上、国がリーダーシップをとり、強力にバックアップをしていくべきである。モニター調査の自由記述に書かれた「地域や家庭の中でも教えていくべきである」「教育委員会のバックアップが必要である」等の意見から学校現場だけでは限界があることが分かる。これらのことから国が具体的な方策を講じ、学校、家庭、地域、行政が一丸となって伝統と文化を教え伝えていくことができる教育環境を、以下の点に留意して整えることが先決である。

教材・教具等の予算の確保

各教科の学習指導要領に「伝統と文化の尊重」の重点項目が明示されたものの、学校によっては、指導が難しい内容も多い。専門的な教材・教具の準備や、その指導者等も必要となる。また、外部から講師を招いたり、体験活動を行ったりすると費用がかかることが多い。

国として責任を持ち、指導できる地域や学校に差ができないよう教材・教具等の予算を確保すべきである。そのためにも、教材費を国が責任を持って負担することが重要である。

外部講師人材バンクの設置

「地域の伝統と文化」「言語文化」「衣食住の文化」「先人等の生き方」等、学校現場の教職員は、子供たちに様々な視点から伝統や文化を教えたいと考えている。しかし、外部人材、外部団体の発掘や確保が難しいという課題が、どの校種とも高い割合を示していることも分かった。

今後、指導者の確保が重要課題になる。国や教育委員会が「外部講師人材バンク」等を作り、学校側の負担を軽減することが、継続して推進するためには求められよう。また、地域社会や地元企業との連携を図るための調整役を行うことも大切である。このように社会全体で育てる土台を作るためにも、地方の教育委員会がセンター的機能を果たすことは重要である。

(3) 家庭や地域社会に関して

家庭の教育力の低下や地域社会のつながりの希薄化が叫ばれて久しい。日本の伝統と文化は、昔から家庭や地域で継承されてきた。今後も学校、家庭、地域社会がともに育てていくためには、以下の点に留意して取り組んでいかなければならない。

家庭・地域の教育力の復活

全ての教育の土台は家庭にある。また、伝統と文化に関する教育資源の多くは地域社会にある。伝統と文化を尊重する教育を推進し、更に継承していくためには、家庭や地域社会の連携・協力なしには難しい。

学校は、学校教育で行っている伝統と文化の教育活動を家庭や地域に発信するとともに、家庭でできる教育(挨拶、食事のマナー、礼儀等)や地域でできる教育(文化や行事の継承、集団のルール等)の必要性和重要性を積極的に啓発していかなければならない。

「子は、親の背中を見て育つ」「親は子の鏡」と言われてきたように子供たちは、自分たちを取り巻く大人たちを見て育つ。大人が自らの襟を正し、礼儀やマナーを守り、他人から学ぶ謙虚さを持つ等、生き方のモデルを示すことで、よき伝統と文化が受け継がれていくと考える。

地域と連携できるシステムの構築

「祭りや行事等の地域の方々が継承してきた地域の伝統」を教えていきたいと回答した割合が全体で70%を占めている。これは地域の伝統を子供たちに継承してもらいたいという教職員の願いであると考えられる。このように伝統と文化に関する教育活動の柱に、地域の伝統の継承を位置付けることが大切である。そうすることにより、地元の人々が学校とかかわりやすくなり、自然とお互いに協力や連携ができる体制を整えることが可能となる。

また、地域の自治会や老人会、育成会（子供会）等と積極的に連携し、学校だけではなく地域社会全体で育てていかなければならない。そのためにも、地域の人とのかかわりやネットワークを広げ、教育活動を支援していただく地域教育推進本部等の組織化も求められるであろう。